令和5年度　第3回定例会

日時：令和6年1月18日（木）　13：30～15：30

場所：宇検村元気の出る館

参加機関：（別紙参加者名簿参照）

全体進行：中田（宇検村保健福祉課）

協議進行：津村（オリーブの丘）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※敬称略

出席者３８名

1. 開会のあいさつ

宇検村保健福祉課　保枝 力人 課長

1. 専門部会報告

・ピア部会（大津：ぴあリンク）

・精神部会（安田：ゆらい）

・相談支援部会（有村：相支援あゆみ）

・子ども部会（座安：のぞみ園）

1. 全体協議

　　「居宅介護サービスの課題について協議会としてできること（継続）」

〇グループワーク発表

◎1Ｇ（星の園、滝の園①、オリーブの丘、医師会①、宇検村保健福祉課①）

・具体的にどの地域でどんなサービスが足りていないのかを把握する。

・短時間だけ働けるような雇用形態の検討。

・市町村を飛び越えて協力できるマッチング機能を協議会が行う仕組みつくりを検討する。

※仕組みつくりの限界も感じている。地域に困り感がある時に集まってくれる関係機関や

人を増やしていくことで解決に向けて力を合わせて取り組んでいけたらよい。

◎2Ｇ（チャレンジド、QOLEAD、医師会②、龍郷町保健福祉課、宇検村保健福祉課②）

・学生ボランティアに事業所の体験をしてもらう。

・高校生や専門学校生に向け、アルバイトやボランティア募集し、出会いの機会をつくる。

・離島応援ナースを参考に、島外から呼び込める仕組みを検討する。

・民生委員や有償ボランティアなどの活用を検討。

・民生委員名簿を作成し、地域で相談しやすい体制をつくる。

・民生委員に対して障害理解の研修会などを実施してはどうか。

・家事援助を、シルバー人材に委託する。

※料理、掃除など業務に関する苦手感から、敬遠されることもある。業務を細分化し、若い方が

働きやすい流れを作ってはどうか。

◎3Ｇ（のぞみ園①、奄美市社協①、大島特支、宇検村保健福祉課③、奄美市福祉政策課①）

・専門学校や高校へ仕事の説明や出前講座を実施する。

⇒実際に働いている人の声を聞いてもらう。

・動画配信などを活用し、福祉の仕事の説明をする。

・若い世代に向けた、居宅介護の実習体験の企画。

・資格取得に対する補助金の活用。

・補助金利用者に対して就職までのサポート体制つくり。

・行政公式LINEの活用。

・移動場所までのガソリン代の支給などを検討する。

⇒広い距離を移動している場合が多い。

◎4Ｇ（滝の園②、介支援専門員協、育成会、のぞみ園②、奄美市福祉政策課②）

・家事支援のためのセンターキッチン機能の検討。

・センターキッチンの業務受託先として、就労B事業所の検討。

⇒野菜などを提供する事業所、食材をカットする事業所など。

・キッチンカーで調理して持っていく仕組みを作る。

⇒災害時にも活用できるのでは。

・キッチンカー、センターキッチンに取り組む就労Bをつなぐ役割として、協議会を活用する。

・取組を試行的に一部の地域でやってみる。

・各事業所が協力して調理する。シルバー人材との連携。料理教室などの実施。

・専門学校生と一緒に調理をしてみる。

・食材の保管について、地元スーパーなどと連携することも検討する。

◎5Ｇ（てぃだ、ＧＨ南風、大島支庁①、介護事業所協、笠利いきいき健康課）

　　　・元気な高齢者を人材として活用する。

　　　　⇒短時間労働を希望する高齢者もいる。

　　　・ヘルパーが業務について具体的な業務内容を示して、募集かける。

⇒ヘルパーが何でもするというイメージがあり入りにくさがある。

　　　・行政の広報ツールを活用して情報提供を行う。

　　　・職員給与のベースアップを。

◎6Ｇ（奄美病院、ゆらい、宇検村社協、大島支庁、住用市民福祉課）

・学生に向けて、ヘルパー業務を説明する機会をつくる。

・利用者や住民の意識を変えるために、区長会で情報共有する。

◎7Ｇ

（奄美市社協②、なのはな園、あゆみ、奄美市福祉政策課③、龍郷町子ども子育て応援課）

　　　・制度以外の資源も活用する。

　　　・「誰でもできるけど誰かがしてくれるとありがたい仕事」というキャッチフレーズ

　　　・ヘルパーOBや看護師OBを有償ボランティアで隙間を埋めるようにする。

　　　・ヘルパーが安心して相談できる連絡体制つくり

　　　・団塊の世代の活用。

　　　・障害に関する地域理解拡大のための取り組み。

　　　・ちょこっとボランティアの方法を考えてはどうか。

**令和5年度　第3回定例会　振返り**

日　時 :令和6年1月18日（木）

全体振返り：１5時40分～１6時

参加者:向（ＣＳＡ）、辻原（てぃだ）、津村（星窪きらり）、吉村（奄美病院）、山田（奄美市社協）玉城、師玉（奄美市）、前田（奄美市笠利）、中田（宇検村）、小野、福田（龍郷町）、大津、近藤、福﨑（ぴあリンク奄美）　※敬称略

参加者：14名

**１．定例会振返り：反省点と次回への課題**

※定例会運営、グループワーク、その他運営全般

◎今回の振返り及び反省点

【運営について】

・時間もタイムテーブル通りに進んでよかった。

・司会もスムーズでよかった。

　・時間もちょうどよかった。

・ヘルパーを増やすために前向きな話し合いができてよかった。

・事前に参加メンバーがわかれば良い。

　・「話し合いたいこと」の中に、「具体的にできることを考える」という項目があったため、話し合いのゴールが設定できてよかった。

　・前回の話し合いを深めるという方向性は良かったが、初めて参加した人もおり、協議内容についての導入が不十分だった。

・前回からの続きというテーマでよかった。

　・自立を目指しているという部分の説明があってもよかったのではないか。

　・数字的な部分も準備できたらわかりやすくなる。

【グループワークについて】

　・各グループのメンバー構成が良かったので、話し合いの雰囲気も良かった。（2）

・グループで差はあったように思う。

　・グループ内で、具体的な意見も多く出たので良かった。

・グループによっては、介護関係の事業所も入っており、具体的な案を介護事業所の方に直接ぶつける形で進めることができたのは良かった。

　・協議内容を絞るのは難しかった。グループごとに話し合う項目を決めておくと良かった。

◎次回に向けた課題や改善点

　・今回の話し合いを何かに繋げていけたらよい。

　・ピアの方の参加も検討しては。

　⇒本人たちも希望している。

　・今回出してもらったものの一つでも実現出来たら。

　・ちょっとでも進めることができたらよい。

　・全体的な参加人数が少なくなっている。再度、協議会自体を自分たちごととしていけるように周知が必要。

　・出されたアイデアを具体的に実現するために、「いつ」「だれが」やるのかということを明らかにしていく必要がある。

　・様々な提案が出された。今後取り組むにあたって、奄美全体で取り組むのか、地域ごとに取り組むのかなど、より具体的に深めていくことが大切。

　・より具体的にするために数値的なことをまとめていく必要がある。

　・事務局運営委員会が柱になってある程度の方向性を決めていかなければいけない。

　・話し合いの中で決めたことをしっかりと期日を決めて、タイムスケジュールに沿って進められるように、イメージを共有してそれに沿って進められたらよい。（見通しを立てる）

　・次につなげるような会議運営を考えていく

　・意見を言いっぱなしで終わらないように、具体的にしていく仕組みを検討していきたい。

　・定例会で各地域を回る際に運営委員会でバリアフリーウォッチングをしても良いのではないか。（各地域の現状をみんなで把握する）

　※次回運営委員会⇒2月１５日（木）

2.奄美地区地域自立支援協議会研修について

「子どもに寄り添う対人支援」

　　講師：加藤 雅江 氏（杏林大学健康福祉学部教授）

　　開催日時：2024年１月26日（金）　15：30～17：30

　　開催場所：アマホームＰＬＡＺＡ

　　パネルディスカッション：16：40～16：35

　　全体進行：辻原 広文 氏（てぃだ）

　　PD進行：向 真由美 氏（チャレンジドサポート奄美）

　　パネラー

　　　・川口 みどり（龍郷町子ども子育て応援課　保育士）

　　　・福山 八代美（奄美市　スクールソーシャルワーカーコーディネーター）

　　　・大海 智美（のぞみ園　相談支援専門員）